

様式例2

古田中学校

平成22年度学校経営重点計画

H22.4.30

1 学校教育目標

明るくたくましく、自ら考え実行し、思いやりのある生徒の育成

2 目指す姿（学校像・幼児児童生徒像・教師像）

学力の向上を図り、豊かな人間性と社会性を育成する信頼される学校

現状と課題

本校は本年度、生徒数845名（25学級）でスタートした。大規模校化しており、個別の課題をもつ生徒も若干存在するが、素直な生徒が多く、生徒は全体的に落ち着いた学校生活を送っている。教職員もよくまとまっており活力に満ちてきた。ただ、生徒の学力においては比較的良好な状態を維持しているが、全体的に高い学力を有しているとはいえない。また学校教育目標からみれば「自ら考え実行する」力に弱さを感じており、生徒の自己存在感・自己有用感・自己肯定感も伸び悩んでいる。本年度より本格的に「ひろしま型カリキュラム」「予防的生徒指導」等が導入された。落ち着いた学校環境を維持・発展しつつ、さらなる活力ある教師集団を基底として、生徒の基礎的・基本的学力と思考力・判断力・表現力の両面、そして豊かな人間性と社会性の育成に努め、さらに信頼される学校づくりを推進していきたい。

4 目標

<p>[中期経営重点目標]</p> <p>生徒一人ひとりを大切に落ち着いた学校生活環境を維持するとともに、授業改善及び個別・補充指導、家庭学習の充実を図り、生徒の「学習意欲」と「分かる・できる」を保障する。また教科・領域での有意な指導を通して「自ら考え実行する」生徒に対する肯定的評価の割合を向上させるとともに、これらの根底となる「めざす教師像」の維持・向上を図る。</p>	<p>[評価指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員による授業記録・行動観察記録 ・教職員・生徒の自己評価アンケート ・保護者アンケート、学校協力者評価
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

短期経営重点目標（1年目・2年目）	評価指標	主な具体的方策
<p>1. 授業が「よく分かった」と感じる生徒、及び授業に「意欲的に取り組んだ」と感じる生徒の肯定的割合をともに、年間（7月・1月）を通じて、85%～90%以上（否定的割合15%～10%未満）にする。</p>	<p>1. 生徒アンケート（昨年度の授業理解の否定的割合：16%、学習意欲の否定的割合：11%）</p>	<p>「よく分かる授業の創造」（仮）を研究テーマにした授業研究を通して授業改善を図る。また、ICTを漸次的に活用していく等、動機付けや視覚の手がかりを通して生徒の学習意欲の維持向上を図る。</p> <p>・生徒が授業以外の時間に「分からないこと」を質問できる雰囲気と環境をつくるとともに、毎週1回1時間の個別・補充指導の機会の設定、長期休業中には認知カウンセリングの機会の設定を図る。</p> <p>・現行の家庭学習の手引きを改善するとともに、各学年・学級、各教科による取組のよさを共有し、家庭学習の教材等の具現化をさらに図り、生徒の家庭学習の習慣性と実践力を高める。</p>
<p>2. 「自ら考え実行する生徒」の育成を図り、教職員及び保護者の達成度の肯定的評価を、ともに50%以上にする。</p> <p>3. 昨年度に引き続き、諸活動を通して生徒の自己存在感の否定的評価を15%未満、自己効力感の否定的評価25%未満、自己有用感の否定的評価45%未満をめざす。</p>	<p>2. 生徒・保護者アンケート（新たに項目設定） 教職員アンケート（昨年度の達成度の否定的評価：65%、） 3. （省略）</p>	<p>・ひろしま型カリキュラム（言語数理運用科）の授業を適切に実施し、情報の抽出・解釈・思考判断・表現等を通して、考えることのおもしろさや他の考えとの交流の楽しさを生徒に実感させる、</p> <p>・ELS（ライフスキル教育）を各学年生徒に年間5時間以上行うとともに、協同（グループ）学習を1日30分以上取り入れ、人間関係づくりやプロジェクトの実施等を通して、3つの感を高める。</p> <p>・これまでの本校の取組をもとに、全教科・領域にESD（持続発展教育）の内容を取り入れ、教科・教育内容に沿ったカリキュラムの編成と実践を行う。そして本年度中にユネスコスクール申請を行う。</p> <p>・朝読書や昼休憩・放課後の図書室の利用に対して司書教諭・図書アシスタント・図書ボランティアを中心に全教職員で読書活動の充実を図り、図書室利用及び読書の1ヶ月1冊未満の生徒を0%にする。</p>
<p>4. めざす教師像としての3項目である「生徒に教育的愛情で接し信頼される教師」「教育者としての力量を高めようと努力している教師」「お互いに協力できる温かさのある教師集団」の教員の肯定的自己評価100%をめざす。</p>	<p>4. 教員アンケート（昨年度の肯定的評価：順に95%、93%、95%） 保護者アンケート（80%～85%）</p>	<p>・特別支援教育およびその視点をもとに生徒の実態をしっかりと把握し、個別の指導計画の作成・共有化を図るとともに、予防的生徒指導（開発的・予防的・対処療法的）を推進し、生徒一人ひとりを大切に教育を展開する。また、教職員全員の協力を通して落ち着いた学習環境を生徒に保障する。</p> <p>・各自が自己の役割や責任を果たすとともに、部署を越えての情報交換や連絡・報告・相談等、コミュニケーション力と思いやりの心をもって、協力し合える温かな教師集団の構築等を更に推進していく。</p> <p>・教育課程外ではあるが、部活動での生徒との量的・質的なかかわりを通して、生徒の健全な成長を図っていく。なお根底的な視点として、お互いの健康に対して、平素より相互に心配りを行っていく。</p>